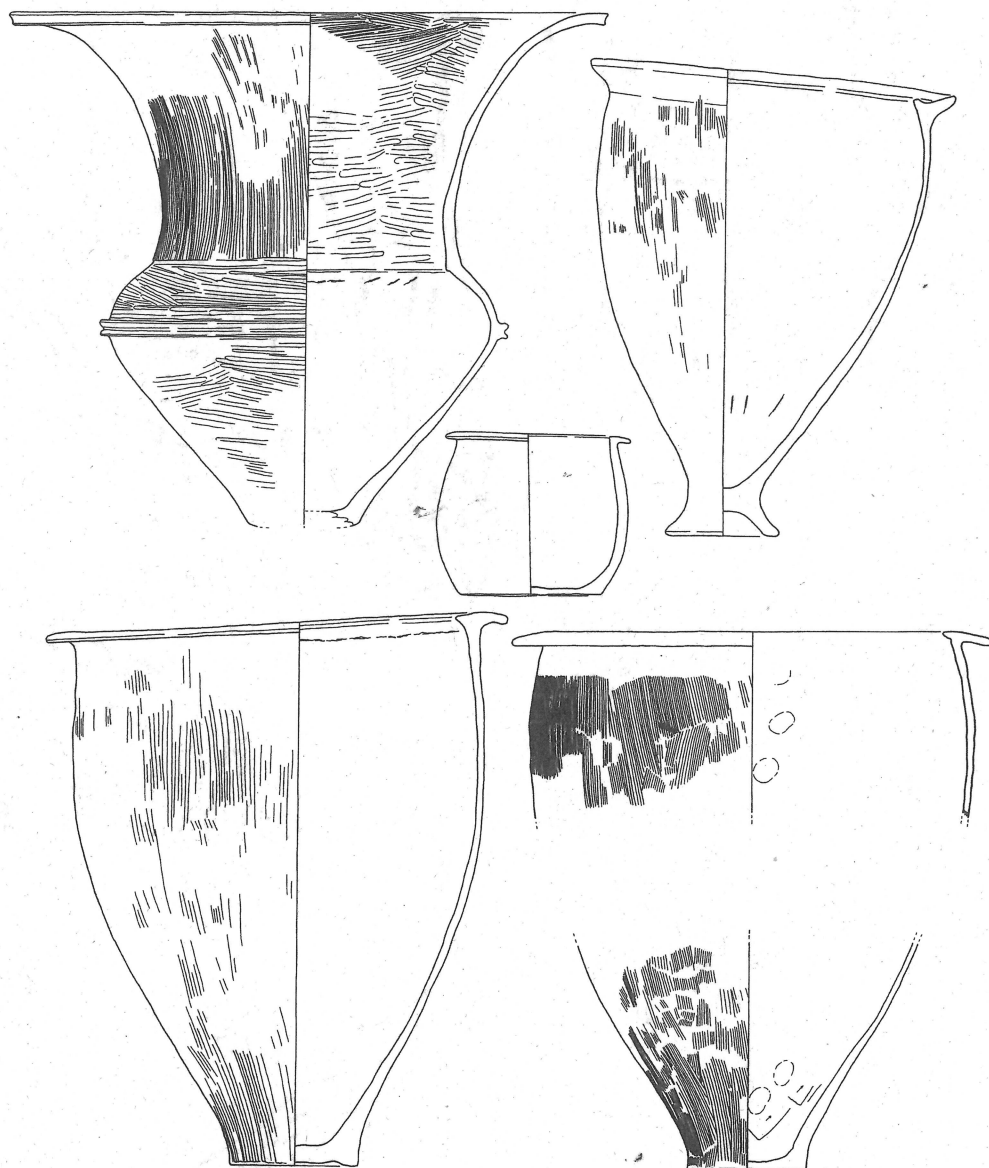


国見町文化財調査報告書(概報) 第5集

じゅう その
十園遺跡Ⅱ

—国見町^{たいら}多比良地区町営圃場整備事業に伴う発掘調査概報—



4区 SB02出土土器 (33~34P)

2005

長崎県国見町教育委員会

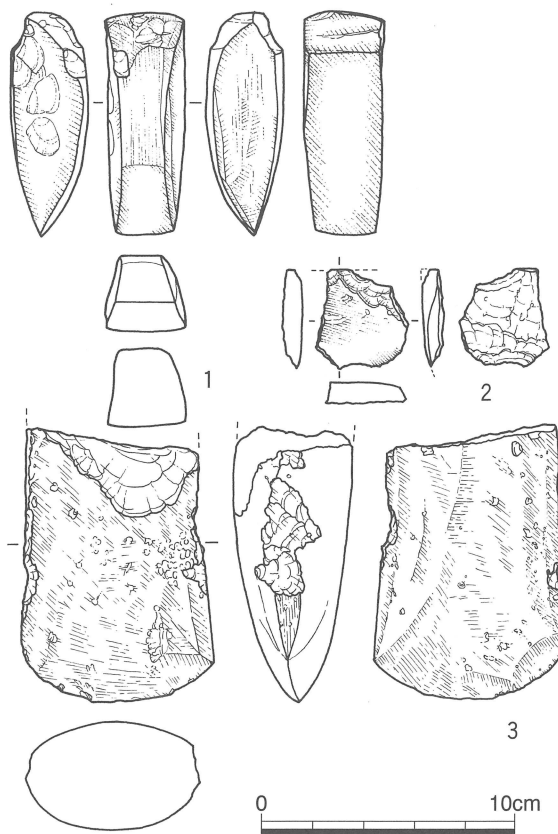
11~14は甕の口縁部片であり、口縁部の形態は黒髪式の特徴をもつ。小破片であるため口縁部直径の復元は難しいが、12で33cm、14で29cmである。胎土は角閃石を多く含み、13や14に雲母が少々含まれる。口縁部の端部の形態にはバリエーションが多く、11・12のように厚みのあるものと、13・14のように薄く作られるものがある。15も甕の口縁部片で、外面に斜位の刷毛調整があり、そのあとからナデ調整が行われている。1/3周ほどまでの破片資料で、直径は復元で21cm、胎土には角閃石を多く含む。16は甕の胴部片、やや丸みのある形態である。台付甕の口縁部と脚部を欠く資料である。外面には斜位の刷毛調整とナデ調整、内面には刷毛調整のあとにナデ調整が加えられる。胴部下半は被熱によって赤色に変化しており、表面はややもろい。17は甕の口縁部片である。口縁部直径は28cm、頸部に断面三角形の突帯をめぐらす。胎土には白色粒子を多く含む。18は甕の胴部片で、外面に赤色顔料が塗布されている。内面にも赤色顔料が塗布されるが、上半だけである。内外面不定方向のナデである。突帯断面は「M」字である。19は甕棺の底部片である。上げ底状になり接地面は底面の周縁部である。復元で底部直径は10cm、胎土には白色粒子を含む。20は高坏の脚部片であり、表面は剥がれ落ちている。おそらく外面に赤色顔料が塗布されていたと思われる。21~23は高坏の坏部片である。内外面に赤色顔料の塗布がみられ、23では口縁部上面に赤色顔料の塗布と暗文とがみられる。暗文は放射状に3~5mm間隔で幅1~2mmの線が施されている。内面も坏の深い部分まで赤色顔料が塗布されている。24は小型の甕の口縁部片であり、口縁部直径は復元で29cm。17と同じように頸部がしっかりくびれるタイプの甕である。25~27は広口壺の口縁部から胴部にかけての破片である。26と27とは頸部に縦方向に走る暗文の間隔が異なる。25は口縁部の直立する部分の破片資料で、27に対応するように暗文は広い間隔で施されている。27の暗文は頸部直径を10等分する間隔に復元できる。28は小型の甕で、これは完全な形になるまで復元できた資料である。表面はもろくなっており調整の観察は難しい。口縁部直径と胴部最大径とはほぼ同じで、頸部は縮まり、口縁部は強く水平に外反する特徴的な形態である。29は甕棺の胴部片である。断面「M」字の大きめの突帯が貼り付けられる。突帯の貼り付けは18などと同じように器面をややくぼませてから貼り付けている。甕の口縁部近くの破片と思われる。

4区 SB01出土石器 (第25図 図版23)

1は磨製石斧片で抉り入り磨製石斧の再加工品である。断面台形で刃部は片刃であり、直刃ではなくやや丸みをもっている。破損面には研磨を施している。長さ8.85cm、幅3.2cm、厚さ3.1cm、重量143.1g。

2は石包丁片で、表面は研磨しているが、欠損が激しく全体的な形態の復元は難しい。研磨の方向は一定方向ではない。重量11.4g。

3は蛤刃の磨製石斧片である。真っ二つに折れており、実際は倍ほどの長さがあったと思われる。長さ10.8cm、幅7.6cm、厚さ4.7cm、重量482.4g。



第25図 4区 SB01出土石器 (1/3)

4区 SB02 (第26図 図版13)

SB01の北北東約5mで検出された竪穴状の遺構である。平面プランは不整形である。検出はSB01と同じように黄褐色粘質土(Ⅳ層)上面である。遺構は黄褐色粘質土層に掘り込まれており、覆土はSB01と同じようにレンズ状に中央部分が厚くなっている。床面には黄褐色粘質土と黒褐色粘質土の混入土を5~10cmで敷き詰めており遺構のほぼ全面で確認できる。調査区の壁面でも床面が確認でき、レベルをほぼ一定に保っている。床面の上には遺物を多く含み黄褐色粘質土層が混入する黒褐色粘質土(Ⅲb層)と黒色粘質土があり、SB01同様にレンズ状に堆積している。SB01と同様に人為的に埋められた感が強い。

床面上では壁寄り中央に焼土の集中する部分がみられ、A-A'にみるように酸化して赤化した土(アミの濃い部分)がみられた。第26図には床面の硬化範囲を示していないが、床面検出に当たり、多数の土坑・ピットなどの掘り込みが確認され、床面の検出には断面観察のみが有効であったためである。多数の掘り込みは竪穴住居跡を廃棄した後に行われたものと、床面下に確認できるものがある。床面下に確認できたものは少ない。

柱穴は南北方向で2つ確認できた。いずれも柱痕跡は確認が難しかったが、床面から15cm以上の掘り込みが断面で観察できた。この当時の住居跡としては方形の中心軸上に二つの柱穴をもつものが一般的である。この穴を結ぶ直線は真北から1度東へ傾いており、この住居跡の主軸線と思われる。

当住居跡は住居廃棄後に、祭祀に利用した土器の廃棄土坑として再利用されており、完掘状態では多数の土坑が確認できた。また、まとまった形で赤色顔料を塗布された弥生土器が出土しており、第29図に示したように完全な形に近い状態まで復元できたものが多い。廃棄土坑については平面プランおよび断面による確認が調査時点では難しかった。以下はその廃棄土坑に投げ込まれた土器群を中心に紹介していく。土器のもっとも集中していた部分(図版13)は第24図の「軽石」とした付近である。この付近で第29図の大部分の土器が集中している。

4区 SB02出土土器 (第29図 図版22・23・31)

1は広口壺である。底部を欠くが胴部から頸部まで全周し、口縁部は1/3周ほどまでは復元できた。復元で口縁部直径39.8cm、高さ34.1cm、底径7.4cmである。口縁部内面は横方向主体のミガキ調整、胴部内面はナデ調整、口縁部外面は横方向のナデ調整のあとに暗文を施し赤色顔料を塗布している。暗文は間隔を空けずに密に施している。胴部外面は横方向主体のミガキ、断面「M」字の突帯より下も横方向主体のミガキ調整である。外面のすべてと内面は頸部まで赤色顔料の塗布がみられる。

2は高坏の脚上半以上の資料である。外面はミガキ調整、内面も横方向主体のミガキ調整、口縁部上面には暗文が放射状に密に施されている。口縁部直径28.9cm、坏部高さ9cm。脚部は表面の磨耗が激しい。3は小型の鉢の口縁部片である。口縁部上面から直径0.5cmの穴が穿孔されており特徴的である。4は広口壺の口縁部片である。口縁部直径は復元で35cm。暗文は間隔を空けて施されている。その間隔は直径を15等分する間隔になる。内外面ともに赤色顔料が塗布されている。

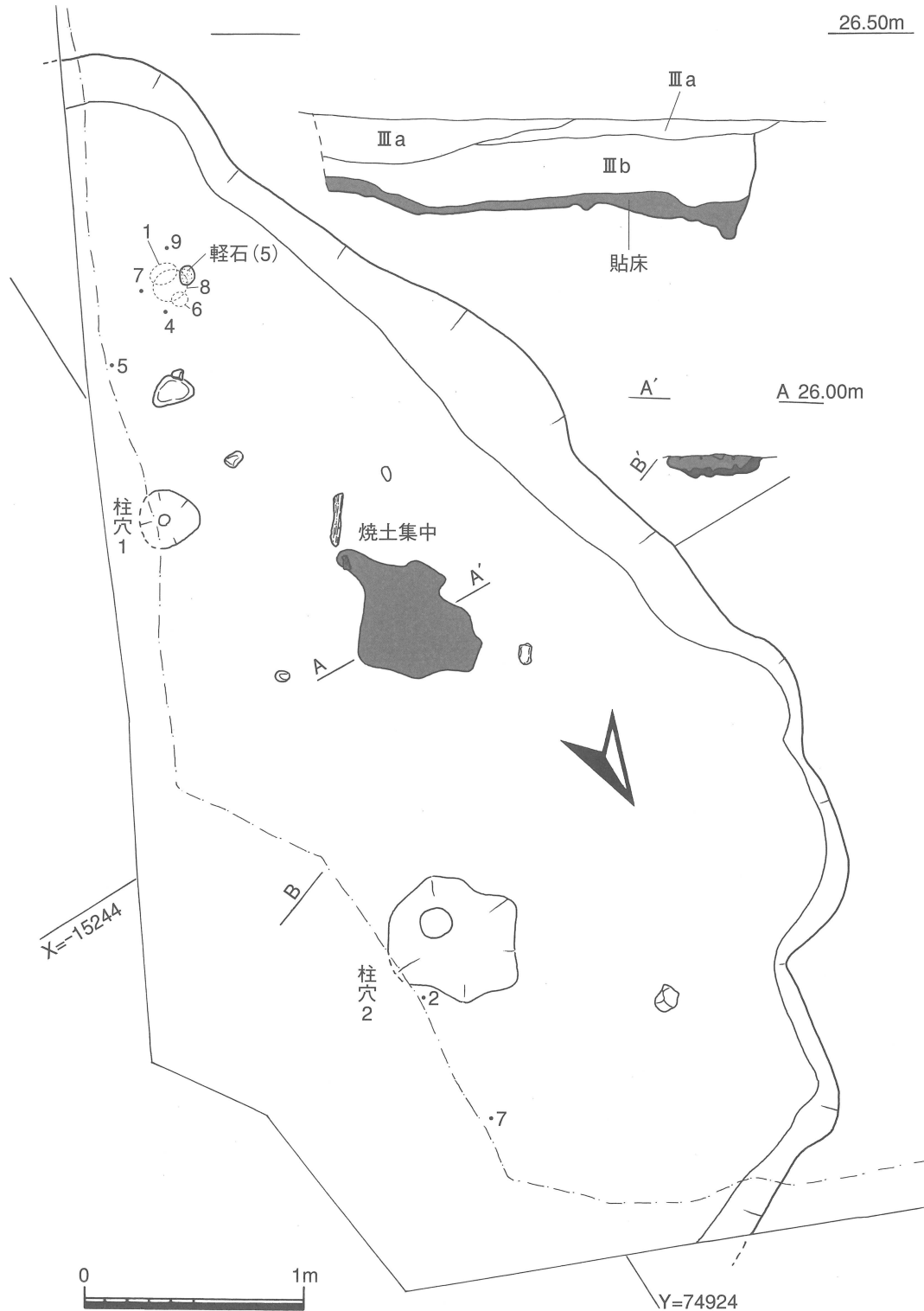
5は甕の胴部下から底部にかけての資料で、底部から胴部中位までは全周する。底部直径は11.5cm、胴部最大径は21cmでやや寸胴な形態である。表面の磨耗が激しく、調整の観察は難しかったが、胴部外面には刷毛調整がみられる。6も甕で全体的な器形が把握できる資料である。ほぼ完全な形に復元できたもので、接合した破片も近い地点で出土しており、完全な形で投げ込まれたものであろう。外面には縦方向の刷毛調整、内面にはナデ調整がみられる。底面は周縁部だけが接地する上げ底状となる。7も甕で、口縁部の破片資料である。復元で39.9cm。8は甕の底部片である。6~8は須玖式の特徴をもつもので、底径がやや大きめとなる。須玖1式新段階から2式の新段階にかけての資料と思われる。いずれも胎土に多量の雲母を混入することも9・10と比べ特徴的である。

9は完全な形に復元できた甕である。口縁部形態と底部形態とは黒髪式の特徴をもつ。10は甕脚部片である。胎土に角閃石を多量に含んでおり、6～8と対照的な形態と胎土である。

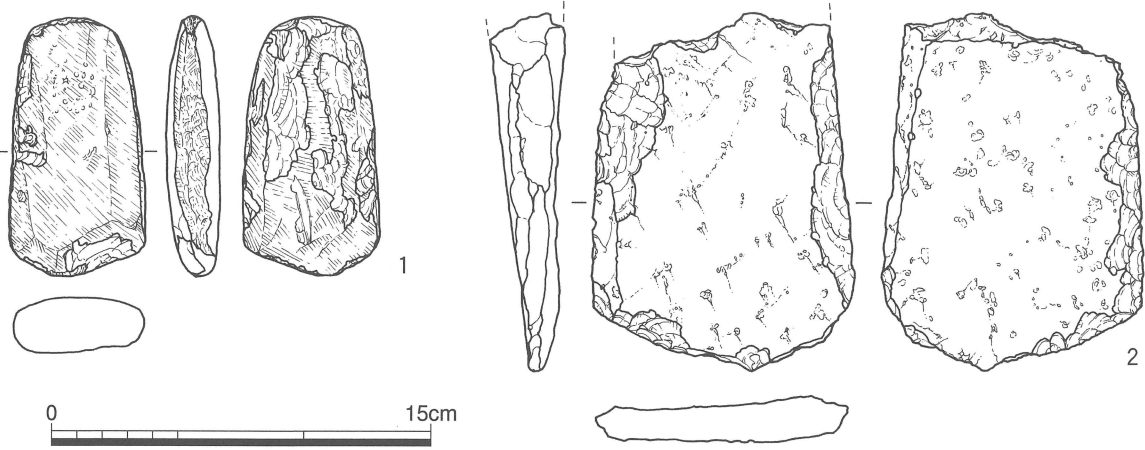
4区 SB02出土石器 (第27・28図 図版23・24)

1は石斧で表面を研磨している。長さ10.35cm, 幅5.4cm, 厚さ2.2cm, 重量236.1g。

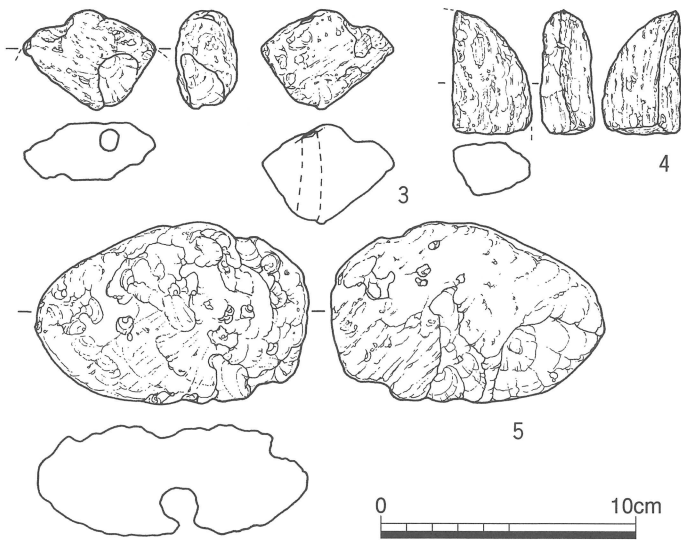
2は大型の扁平打製石斧であり、柄に近い部分で折れて欠損している。長さ14.25cm, 幅10.35cm, 厚さ3.0cm, 重量408.2g。



第26図 4区 SB02(1/30)



第27図 4区SB02出土石器①(1/3)



第28図 4区SB02出土石器②(1/3)

3は軽石で浮子と思われ、人為的な穿孔が確認できる。孔の直径は1~0.8cmで、孔の長さは3.5cmほど。長さ3.9cm、幅5.25cm、厚さ2.35cm、重量は6.1g。4は表面を研磨し丸く加工しているが欠損しており、平面楕円形に加工したと思われる。残存長さ4.9cm、残存幅3.1cm、厚さ2.15cm、重量5.4g。5は未加工品であり、もっとも土器が集中して出土した地点での出土である。長さ7.1cm、幅10.75cm、厚さ4.35cm、重量47g。現在でもこの程度のものならば、国見町多比良港周辺で多量の採集が可能である。軽石製品の原料の採集にはそれほど手間がかからなかったと思われる。

第7表 4区SB02出土土器観察表

図	番号	種別	法量(cm)	胎土/色調	備考
29	1	弥生土器 壺	復元口径 39.8 復元底径 7.4 残存高 34.1	外面:赤褐色(Hue2.5YR4/8) 内面:赤褐色(Hue2.5YR4/8), 橙色(Hue5YR6/8) 雲母, 長石, 石英, 赤褐色粒子	赤色顔料 焼成良好
	2	弥生土器 高坏	口径 28.9 残存高 12.95	外面:明赤褐色(Hue5YR5/8), 橙色(Hue5YR6/8) 内面:明赤褐色(Hue5YR5/8), 橙色(Hue5YR6/8) 2mm程度の長石・石英, 雲母・赤褐色粒子	赤色顔料 焼成良好
	3	弥生土器 鉢(小型)	残存高 1.8	内外面:橙色(Hue5YR7/6) 角閃石多い, 白色粒子, 雲母	
	4	弥生土器 壺	復元口径 35	外面:赤色顔料 内面:赤色顔料 白色・赤色粒子若干, 2mmを超える白英粒若干	よく精製されている
	5	弥生土器 甕	底径 11.5 残存高 20.3	外面:橙色(Hue5YR6/8) 内面:橙色(Hue5YR6/8) 0.5~5mm程度の長石・石英多い, 雲母	内外面ともに 器壁の剥離が著しい
	6	弥生土器 甕	口径 30.65 底径 8.6 器高 36.7	外面:にぶい橙色(Hue7.5YR7/4), 橙色(Hue2.5YR6/6) 内面:にぶい橙色(Hue7.5YR6/4), 橙色(Hue5YR6/6) 雲母, 赤褐色粒, 2mm前後の長石・石英	焼成良好 外面:スス付着 黒斑
	7	弥生土器 甕	復元口径 39.9 残存高 12.45	外面:橙色(Hue5YR7/6) 内面:にぶい黄橙色(Hue10YR7/3) 長石・石英・雲母多い, 赤褐色粒	焼成良好 外面:スス付着
	8	弥生土器 甕	底径 7.8 残存高 15.15	外面:にぶい橙色(5YR6/4), 橙色(Hue7.5YR7/6) 内面:にぶい黄橙色(Hue10YR6/3) 長石・石英・雲母多い	焼成良好 外面:スス付着
	9	弥生土器 甕	復元口径 24.25 復元底径 7.5 器高 31.45	外面:にぶい黄褐色(Hue10YR5/4), 橙色(Hue5YR6/6) 内面:にぶい黄褐色(Hue10YR5/4), 橙色(Hue5YR6/6) 微細な長石・石英, 角閃石多い	焼成良好 スス付着
	10	弥生土器 甕	底径 7.95 器高 11	外面:灰黄褐色(Hue10YR4/2) 内面:灰黄褐色(Hue10YR4/2) 雲母・角閃石・赤褐色粒, 微細~2mm程の長石・石英	焼成良好